

第1回文化発信戦略に関する懇談会 議事録

日時 : 平成19年12月26日(水曜日)15:00～17:00

場所 : 丸の内東京会館

出席委員 池上委員, 池辺委員, 一瀬委員, 北岡委員, 北川委員, 久保委員, 扇田委員, 竹本委員, 遠山委員, 平山委員, 福原委員, 森口委員, 山内委員

(青木文化庁長官及び山本広報文化交流部長からの御挨拶, 事務局からの資料説明の後, 各委員から御発言)

- 海外にいる日本文化の受け手はどのように働きかけるか。どうインセンティブを与えるか。
- 様々な交流活動を行っている日本人のネットワーク化が必要。
- 海外の日本人学校なども、日本文化の発信基地となり得るので、いろいろなケースを研究することが必要。
- 日本語教育が学問として確立しておらず、外国人子女に対する日本語教育の専門家もいない。
- 韓国や中国が自国の文化振興に力を入れている状況を見ると、日本も何かする必要があると感じる。
- フィンランドは若い優秀な音楽家が出てきており、その背景を調べてみたことがある。
- ヴェネズエラの児童・青少年オーケストラが高い評価を得つつあるが、それは国としてオーケストラによる児童教育に取り組んだからである。
- 会議名の「戦略」という言葉を使うのには抵抗があり、「計画」程度が望ましい。
- アニメーションは吹き替えができるが、実写映画は字幕が必要であり、字幕で映画を見るのに慣れていない海外では、余り見られない。
- アメリカの映画界では、日本とは桁違いの収入が得られるので、人材流失が起きる。
- 映画に関して国が取り組むとすれば、海外向けの国産映画製作への支援である。
- 日本文化のすばらしさを日本人自身が理解するように文化のエンパワーメント、再生産が必要。
- 文化発信を何のために行うかを考える必要がある。また、中国の孔子学院や韓国の場合は、何のために行おうとしているのか次回までに調べてもらいたい。
- これまでの文化政策のフォローアップが必要。
- 面白いことをしている人は国からオーソライズされている人ではない。国はオーソライズ以外の関わり方を考えるべきである。
- 伝統文化がどこからどのように生まれてきたかを整理する必要がある。
- 余り「日本が」と思わない方がよい。建築では日とアジア・パシフィックという関係でプロジェクトが進んでおり、そういうものをコーディネートする立場に立った方が、他国とのつながりができる。
- 英語字幕をつけたアニメがネット上で出回っており、DVDの売上げが落ちている。水面下で行われている字幕を作るような仕事をどのように取り扱うか検討する必要がある。
- 東京アニメセンターは嗜好が外国人訪問者。英文サイトをきちんと更新しており、このような取り組みに支援があるとよい。
- ネットは最も効果的な発信手段なので、活用について研究が必要。

- 東京はNMに匹敵する演劇都市だが、演劇の作り方が内向きである。言語の問題などがあり、海外から東京には見に来ない。韓国では英語字幕を入れている。文化庁にはもっと積極的に日本の演劇を発信してもらいたい。
- 日本の戯曲を海外で現地のプロの俳優に現地語で上演してもらおうと良い。
- 東京における世界的な舞台芸術フェスティバルの開催を望む。
- 日本の文化芸術についての包括的なプラットフォームがない。
- 日本人に必要な海外の情報、外国人に必要な日本の情報について、文化庁と一緒に整備したい。
- 世界のアーツカウンシルの会議であるFAOCCAや文化サミットでの日本のプレゼンスが低いので、そのような場で発表できるような人材を育成する必要がある。
- 既に多くの施策は実施しており、にもかかわらずどうして発信力が弱いかを考える必要がある。まずは、文化庁が美術、舞台芸術、メディア芸術、文化財など分野ごとに、人材育成、拠点形成などの状況がどうなっているか分析をすべきである。
- 日本人が日本文化の本質について語れない現状がある。そうした本質的なことをやる必要がある。
- 世界の中の日本の文化の位置づけも明らかにすると良い。
- 文化は静的に捉えるのではなく、動的に捉える必要がある。単にあるものを発信するのではなく、次々と作り出されてくるものを発信する必要がある。ヨーロッパのクリエイティビシティなども参考になる。
- 今の日本で、他からあこがれられるものを作り続けることが必要。
- 文化発信というのはなかなか難しいが、創造、発信する人材を育成することはできる。国はそうしたことをすべきである。
- 伝統工芸に関して常設展示施設がないので、常設展、研究センター、研究者のネットワークのための拠点が必要。後継者不足も大きな課題であり、そのためにもこうした研究拠点は必要。そういったものがあれば、手弁当でも協力したい。
- 「戦略」という言葉を使うことには抵抗がある。